

大阪電気通信大学
令和4年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」
点検・評価報告書

大阪電気通信大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会

令和5年5月9日作成

令和4年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」点検・評価報告書

数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会

委員長 越後 富夫

1. 点検・評価の実施

大阪電気通信大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会が実施主体となり、令和4年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)に関する授業科目の自己点検・評価を行った。

2. 点検・評価の対象

令和4年度の授業科目の点検・評価を対象とした。また、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱細目」(令和3年2月24日制定)に基づき、大阪電気通信大学が開講した授業科目の「履修・修得状況」、「学修成果」、「学生アンケートに基づく学生の内容の理解度」、「他の学生への推奨度」、「全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況」を対象とした。

3. 評価結果の判定

「大阪電気通信大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会による自己点検・評価結果」における評価レベルA～Cは以下の基準とする。

【評価レベル】

A 『優れた点』があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

4. 大阪電気通信大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会による自己点検・評価結果

(1) 授業科目の点検・評価

自己点検・評価の視点	点検結果	評価結果
プログラムの履修・修得状況	令和4年度の履修者は、情報通信工学部261名、工学部86名、総合情報学部14名、医療健康科学部2名で、全学では363名となり、入学定員の29%であった。 一方、修了者は全学部で16名であるが、「データサイエンス基礎」が2年前期、「人工知能」が3年後期の開講科目であるため、2年に跨いだ修了要件に伴い今年度以降に修了者が増加すると考えられる。	(評価レベル C) 情報通信工学部以外の学部からの履修者増が課題であり、情報系とそれ以外で異なる科目設定が必要である。
学修成果	学生アンケートの結果から、総合評価において「満足」「やや満足」の合計は「データサイエンス基礎」68%、「人工知能」92%であった。 46%以上の学生が難易度も適切と感じており、実データを用いた演習を多く取り入れることで、データサイエンス、人工知能の概要が理解された。	(評価レベル A) 授業に興味を持って取り組んでくれた印象があり、高い満足度が得られた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	受講生は情報系2、3年生のため、コンピュータを使った演習を多くしたこと高い理解度が得られた。	(評価レベル A) 難易度が適切で学生の理解度が得られた。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業レベルが『難しすぎる』と答えたのは「データサイエンス基礎」17%、「人工知能」8%であり、残り大多数の学生が「やや難しい」「ちょうど良い」と答えた。さらに総合評価で68%以上が満足度を示していることから、これらを統合すると、後輩達や他の学生へ推奨しているのに等しい。	(評価レベル A) 授業の好感度を上げるアンケート結果で、後輩への推奨となっている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6年度からの新カリキュラムにおいて、共通科目の区分に情報基礎群(仮称)を設置し、全学統一で数理・データサイエンス・AI 教育科目を編成し、学生から分かりやすくした。	(評価レベル B) 履修者増のためのカリキュラム改定は計画が進んでいるが、現状はまだ履修者増になっていない。

(2) 教育プログラムの点検・評価

自己点検・評価の視点	点検結果	評価結果
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和4年度から開始されているため、現在は本プログラムを履修した卒業生は少数のため企業からの評価は得られていない。今後、卒業生調査を通して同プログラムを修了した卒業生の進路や活躍状況等を把握する予定である。	(評価レベル ー)
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	企業や地元自治体からは本学の実践的な教育内容に対して好評を頂いており、社会人向け生涯教育への展開も期待する声も頂いている。その意見を反映して、社会人を対象としたリカレント教育『就業者向け数理・データサイエンス・AIの基礎教育プログラム』を令和5年後期から実施することを企画した。	(評価レベル A) 地元から大きな期待を寄せられている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラム(応用基礎レベル)に準じた内容を展開し、現代社会におけるトレンドに沿った実例をもとに、データサイエンス・AI等がどのような活用をされているかを中心に、興味を促進する講義内容とした。	(評価レベル A) 授業内容の構成は学生にも好評を得た。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	応用基礎レベルの修了要件となる2科目は情報系学科の専門科目であるため、全学開講によって非情報系学科の学生でも理解しやすいように、演習時間を多く取り入れた。	(評価レベル A) 学生アンケートの結果から、高い満足度が得られている。